



第12回例会 2006年9月27日(水) 雨 No. 2313

●ソング=手に手つないで/司会=吉田諄SAA

<卓話>



## 第1回どんぐりの森づくり計画

どんぐりの森づくり実行委員長 飯田隆彦

### 【ポット苗の移植及び苗木里親への引渡作業】

昨年準備をしましてまいりました第1回どんぐりの森づくり計画が、丁度中間点にさしかかったところでした。

募集をしておりました苗木里親も決まりました、先日23日の土曜日に、ポット苗の移植作業を行って、小プランターに収納したポット苗を、里親のみなさんに配布いたしました。多数の会員とご夫人そしてRACのみなさんにご協力いただき、それぞれ役割を分担して作業してまいりました。朝早くから、みなさんお集まりいただき、普段やりなれない作業を汗を流しながら一生懸命に行っていたいただき、本当にご苦労様でした。かなりキツイ作業もありましたが、みなさん、腰のほうは大丈夫だったのかと心配をしておりました。

ところが、翌日の日曜日に、仲間内のゴルフコンペがたまたまありまして、お疲れのはずの清水さんが優勝、中川さんが準優勝をいたしました。年は取ってもまだまだ気力・体力共に若々しさを持続している参加者のみなさんに、無用の心配をしてみました。来年もありますので、若々しさを十分持続しておいていただき、また、よろしく願いいたします。

### 【どんぐりの森づくり計画について】

さて、私どものクラブでは、環境保全活動の一環として、植樹活動に取り組んでおります。

昨年で完結した岩山レンゲツツジの植栽事業に代わる新たな事業として、みんなの手で「どんぐりの森をつくっていこう」という計画を立て、市との交渉の結果、盛岡中央公園内に用地の割当ても決まり、「どんぐりの森づくり実行委員会」として今取組んでいるところです。

数種類のどんぐりを拾い集め、虫抜き、種ま

き、苗づくりをして、この苗を1年間育成をして、それから植樹に取り掛かってまいります。

プランターに植えた実は、冬の間の冬眠を経て、4月半ばに一斉に芽を出し始め、7月半ば頃には10センチほどに、そして9月に入りますと15センチほどの苗に成長しております。これを1年かけて、40センチほどの苗木に育ててから植樹をしていきますが、この苗を1年間、育ていただく方を苗木の里親と名付けました。

7月ごろから、市民のみなさん、公園周辺の幼稚園や小中学校の生徒及び父兄のみなさんに声を掛けて募集をしましてまいりましたが、みなさん大変興味を持っていただき、たくさんのご応募をいただきました。そして、9月23日の移植作業で出来上がったポット苗を里親のみなさんに渡してまいりました。

### ■里山について

今回の「どんぐりの森づくり計画」のきっかけは、一つに、日本全国のどこにもあった里山についてです。里山とは、各地域の集落や田畑の周囲にある山林のことで、薪をとったり、木を伐って炭焼きにしたり、落ち葉を集めて畑の堆肥にしたりして、さまざまな形で資源を利用し、適度に人手が入った形で維持されてきた雑木林のことです。

この里山には、ナラの木やクヌギなどドングリの木やクリなどが主原木となっておりますから、人々が慣れ親しんできた多様な小動物が生き、カブトムシやクワガタがいる雑木林でもあります。また、カタクリや、えびね、アザミなども花を咲かせています。そして、間伐材を使って炭を焼いたり、山菜やきのこを採ったりと、雑木林の資源を活用して人々の生活を支えており、人間にとっても、動植物にとりましても、

いのちの森ということが出来ます。

その里山が、宅地や商業用地化による大規模開発の対象となったり、生活様式の大きな変化などにより、里山の資源である、薪や炭や堆肥などを使うことがなくなり、つぎつぎに姿を消しております。残っているとこも、人手が入らなくなり、放置されて、かつての雑木林と違った鬱蒼とした森になりつつあります。

こうした状況で長い年月が経過してきましたが、宅地開発で移り住んできた住民たちの間で、身近な里山に対する関心が高まりつつあり、雑木林の保存や再生の動きが、全国的に活発になってきております。

炭焼きに挑戦するグループや、散策をしてどんぐり、クリ拾いなどを楽しむレクリエーション林、子供たちのハイキングや課外活動などの学習林などの活動をしている、さまざまなボランティアグループが増えてきています。

日頃のけん騒な生活の中で、心を癒し、生きる活力を与えてくれる、いのちの森・ふるさとを感じる森を、人々は、里山に求めているものと思います。

#### ■自然植生の本物の森づくり

もうひとつ、自然植生の本物の森づくりに取り組んでいる人の話です。

宮脇昭という名前を、みなさん聞いたことがありますかどうか。横浜国立大学の名誉教授で、50年間で世界中に3,000万本の木を植えてきた方です。NHKの教育テレビで、「日本一多くの木を植えた男」というタイトルで、紹介をされております。8年ほど前から、中国の万里の長城周辺に森をつくらうということで、広大な面積を緑に変える作業を、中国政府と行っており、毎年80万本の植樹が行われ、日本からも多くのボランティアが参加をし、現在も続いているということです。

この宮脇教授は、「緑の植物こそが、地球上の生態系の主役である」といっております。「その、みどりの植物、特に**自然植生の樹木である、緑が凝縮した本物の森こそが、人間のいのちの基盤である。**」と、力説しております。**その本物の森が、いま激減しているということです。**鉄やセメント、石油化学製品などで出来ている都市文明がこのまま続けば、健康な体も、感動する心も、土地固有の文化を創造するための知性も、**大変危険な状態に陥っていく、と警告しています。**

この土地で生まれ・学び・働いている人達に、心身ともに健全に生きていける生活環境を保障する「いのちの森・ふるさと森、そして本物の森づくり」こそが、今取組まなければならない緊急の責務である、と宮脇教授は訴えているのです。この宮脇教授の主張に私どもは共感し、そして、里山の再生を願いながら、今回の「どんぐりの森」づくりを計画いたしました。

どんぐりの木は、落葉広葉樹の中でコナラ・クヌギ・カシワ・ミズナラ・アカモドキなど何種類かあります。潜在自然植生といって、東北地方の土地本来の樹木で、厳しい気候条件に耐え、森を形成する、大変丈夫な木です。

どんぐりの採取から苗づくりを行い、里親による苗木育成、そして植樹と約2年がかりになります。これを4回まで繰り返し、合計1万本のどんぐりを植樹して2010年で完結する予定になっております。

実が生り、たくましく成長した森になるまでには20年30年の歳月がかかりますが、「リスなどの小動物が棲む森」「セミやカブトムシ、クワガタなどがいて鳥がさえずるいのちの森」そして、「子供たちや家族のみなさんがのんびりと散策し、どんぐりを拾って楽しめる“ふるさと森”」を目指して、みんなで取組んでまいりたいと思います。

## 【ポット苗の移植および苗木里親への引渡し作業】

平成18年9月23日 盛岡中央公園にて

岩井澤会長の挨拶で、この日の作業がスタートいたしました。



プランター苗の一部が運ばれ、各班に分かれて、作業が始まったところです。



ポット底網をカットしているところです。





ポットに苗を移植しているところです。



土入れ作業、結構キツイ作業です。



ポット収納班ご苦労様でした。



一段と大きく成長した栃の木



どでかい根っこをポットに詰めるのが大変でした。



苗木里親の皆さんがやってきました。



里親第1号の家族です。



里親の皆さんに、小プランターに収納したポット苗を運んでいただきました。



なかなか品定めが厳しく慎重でした。



後片付けの後ご夫人とRACの皆さん。



ご夫人同士で、ご苦労様



お疲れ様でした。



## ■会長報告■

先日22日は情報委員会が開かれ、6名の会員が出席し、ロータリーに関する話で和やかに進行しました。委員長及び委員の方々ご苦労さまでした。これからも2度、3度と可能な限り計画してください。

その翌日は「どんぐりの森づくり」実行委員会が、苗木をプランターに移植する作業と、苗木の里親に苗木を引き渡す作業が一日中行われました。作業量が多かったのですが、会員とその奥様方、ローターアクトの方々と多数の参加者で行われ、無事予定通り行われたようです。(私は午前中だけで帰りましたが、委員会の方々は午後4時頃までかかったようです。)

さて日本は新しい総理大臣、内閣が決まりました。日本各地及び世界の国々より期待する意見、批判する意見等出ています。私も大いに期待したいですが！

## ■委員会報告■

職業奉仕委員会 中川米治委員長

クリーンアップ大作戦を10月5日前後に行うようお願いします。

## ■ビジター■

(盛岡) 熊谷祐三

## ■メークアップ■

(地区) 田口良一

(RAC) 小川智子

(情報委) 岩井澤昭一 工藤 泰

(どんぐりの森づくり) 阿部价男

(盛岡東) 田口純二



SMILE

☆岩井澤昭一会長…9月22日情報委員会、23日「どんぐりの森づくり」実行委員会の皆さん、ご苦労様でした。

☆川村圭一幹事…先週は情報委員会と「どんぐりの森」の両方に出席させていただきました。

☆飯田隆彦・三浦哲両会員…9月23日のポット苗移植作業、及び苗木里親への配布作業におきまして、多勢のご参加、そしてキツイ作業、ご協力いただき有り難うございました。

☆清水泰宏会員…秋分の日、晴天の下に朝8時過ぎから終日、ポット苗移植作業と里親への引き渡し和やかに実行されました。会員の奥様方も多数参加されて作業が順調に運びました。可愛いお子様連れの若々しいご家族に接し、嬉しさとともにいよいよ張り合いも倍加しました。楽しい一日となりました。皆様ご苦労様でした。

☆中川米治会員…9月22日に開催された情報委員会に出席、加藤剛一会員と盛り上がり、加藤会員のマジック(手品)に感激したり、年齢を若く間違えてチップをいただいたり楽しかったです。いただいた1,100円と同額をプラスしてスマイルします。二次会にも誘われ、カラオケを歌いまくり(得点が出る機械)、翌日のどんぐりの森づくり活動では少々声が嘎れていました。が、秋晴れの良いお天気の中での土いじり、楽しかったです。

☆田口絢子会員…今日は一時から盛岡税務署で租税教育の講習会に出席のため、早退します。盛岡法人会女性部会では、小学生を対象に「紙芝居」を使って税金の使い方などの勉強会をやっています。孫たちが小さかった時を思い出しながら、「紙芝居」にチャレンジしています。

☆田口純二会員…休みがちでしたが、久々に出席できましたのでスマイルします。9月23日の苗木里親に渡す催し、大変お疲れ様でした。飯田実行委員長さんは、特に準備その他で本当にありがとうございました。

☆高橋量次会員…今日は早めに失礼しますので、お詫びの気持ちを込めてスマイルします。

## 出席報告

会員数 59名

出席数 35名

出席率 61.54%

前々回修正出席率 69.23%

## ●次週プログラム予告●